

愛知山労

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2022年12月15日発行

No. 595号 (第54期 8号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

女性部交流山行 i n 金時山



6 山岳会 36 名の参加で、12 月 4 日（日）金太郎伝説が残る金時山で交流山行を開催しました。お天気が少し心配でしたが、バスの窓に大きな富士山が現れると歓声がわき、乙女峠から頂上まで見事に富士山が併走してくれました。芦ノ湖や大涌谷まで見通せる絶景も楽しみながら登ることができ、公時神社へ下山し帰途につく頃、夕日に照らされる富士山まで見られ贅沢な一日でした。多くの参加者とゆっくり穏やかに歩けたことに感謝する 1 日でした。（次頁につづく）

《目次》

女性部	女性部交流山行 i n 金時山	1
理事会	理事会からのお知らせ	2
遭対部	12 月 9 日（金）54 期遭対冬山合宿連絡会議の報告	3
教育部	11/24(木) 第 6 回教育担当者会議を開きました	4
自然保護部	11 月 18 日（金）第 5 回自然保護担当者報告	5
組織部	第 7 回 組織担当者会議報告	6
〃	組織部交流山行 実施報告	7
女性部	女性部便り	7
	「第 18 回 全国登山研究集会」	8
	第 21 回東海ブロック雪崩事故防止のための講習会（机上）	10
	「労山登山学校交流会」に参加して	10
	第 55 期登山学校、2023 年 4 月 2 日から開講	12
	カレンダー	14

(表紙からのつづき)

若駒山岳会 前出くみ子さんからのコメントです。

一日中、富士山の姿を眺めながら、とても気持ち良く歩けました。会の垣根を越え、班に分かれての山行で、先輩方から色々な情報や経験を教えていただきとても勉強になりました。初めての金時山は金太郎にまつわる、まさかりや大きな石など登山だけではなく、見所が沢山。景色も素晴らしく、富士山だけではなく、箱根や芦ノ湖も見えました。

理事会からのお知らせ

2022 年 11 月 17 日 第 9 回 理事会

600 号記念 会紹介記事の募集

「労山愛知」は来年 5 月には第 600 号の発行を迎えます。この第 600 号の発行を記念して各会より会の紹介記事を募集します。「登山運動・愛知県勤労者山岳連盟 30 年のあゆみ」によると「労山愛知」に先立ち、1969 年 4 月 1 日に「事務局通信」第 1 号、同年 4 月 11 日に「労山愛知」第 1 号、5 月 15 日に「県連通信」がそれぞれ発行されています。以来、53 年以上にわたり、各会と県連理事会との橋渡し、情報交換や方針の周知徹底等の役割を果たしてきました。それらは遭難対策活動、教育活動、組織拡大、登山活動など、それぞれの分野の活動を推進し、県連盟の発展に役立ってきました。

今回、各会の活動を紹介し合い、共に学び合う機会として各会の紹介記事を募集し、第 600 号を前後して掲載していきたいと存じます。タイトルは「〇〇〇山岳会(〇〇〇山の会)紹介」とし、紹介記事内容は、会の設立趣旨、会の略史、現在の活動内容——会の活動や組織の特徴、近年のトピックス、今後の展望など、自由にお書きください。原稿の量は A4 版 2 頁程度でトピックスの写真も入れてください。

現在、各会を構成する会員も県連盟創立以来の会員は少なく、県連創立以来に限らず近年の県連各会を知る会員も少ないかと思えます。今回の各会の紹介記事によりお互いに学び合い、前進し合える一助になればと思います。提出期限は来年 3 月末といたします。

県連理事・役員 募集

愛知県連盟第 54 期 2022 年度は今期を振り返り、第 55 期を見据えての活動を検討し作っていく時期となっています。同時に新年度の執行体制をどのように作っていくか、という大切な時期にもなっています。

県連“理事会は本連盟の執行機関であるとともに、総会決定事項の具体化に関わる決定機関でもある。会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長、事務局次長、財政、理事で構成する”(連盟規約第 7 条 3.)と定められています。県連盟の目的は“加盟団体の自主的・民主的活動をとおして、安全で楽しい登山の知識・技術を助け、国民のスポーツ・文化としての登山を創造・発展させるとともに、平和で豊かな社会を追求する。”(連盟規約第 3 条)と定められています。理事会は趣意書の趣旨に則り、こうした目的に近づくことができるように活動する役割を担っています。

現在、こうした活動を推進する理事会の構成・陣容は決して十分なものではありません。理事会としては各会より、県連盟の活動を推し進め労山の拡大・強化に資する誠実で活力ある人材を求めます。会での経歴や登山経験の多寡は特に問いません。現在、理事・役員に占める女性の割合は低く、女性会員の意見や感性を反映させるには十分ではありません。より多くの女性会員の活力を引き出して県連をより活発にする為にも、是非女性会員を理事会に送り出していきたいと思えます。

各会に於かれて検討され、県連理事会と県連盟の強化・発展のため理事・役員の候補を送

り出していただきますようお願いいたします。

遭対部 12月9日（金）54期遭対冬山合宿連絡会議の報告

2022年12月9日（金）県連事務所で19:30より、遭対冬山合宿連絡会議を開き、8山岳会11名が参加しました。【参加者】 樋江井（若駒）、佐賀、水谷（同志会）、添田（ありんこ）、洞井、小栗（半田F）、岩田（じねんじょ）、森（東三河）、前田（かわせみ）、井上、佐藤（あつた）

冬山合宿一覧

山 岳 会		山城	コース	日 程	人 数
じねんじょ山の会		八ヶ岳	女神茶屋～蓼科山～女神茶屋	12/18	14
半田ファミリー山の会		八ヶ岳	美濃戸口～赤岳鉱泉～硫黄岳～赤岳鉱泉～行者小屋～赤岳～地蔵の頭～赤岳鉱泉～美濃戸口	12/24～25	8
名古屋山岳同志会	A	八ヶ岳	美濃戸口～行者小屋～赤岳～行者小屋～美濃戸口	12/29～31	10
	B	八ヶ岳	美濃戸口～赤岳鉱泉～赤岳主稜～赤岳～赤岳鉱泉～阿弥陀北陵～阿弥陀岳～美濃戸口	1/7～9	4
名古屋ありんこ山岳会		八ヶ岳	美濃戸口～赤岳鉱泉～硫黄岳～赤岳鉱泉～美濃戸口	1/7～8	8
東三河山ぽ会	A	浅間山	高峰マウンテンパーク⑨～高峰山～高峰マウンテンパーク⑨～黒斑山～高峰マウンテンパーク⑨	1/7～8	13
	B	大山	大山宿泊地～夏山登山口～大山～六合目避難小屋～大堰堤～大山宿泊地	1/7～8	10
	C	美ヶ原	山本小屋～塩くれ場～王ヶ頭～塩くれ場～山本小屋	1/9～10	6
あつた勤労者山岳会	A	八ヶ岳	美濃戸口～南沢～行者小屋～赤岳～行者小屋～南沢～美濃戸口	1/8～9	4
	B		美濃戸口～行者小屋～中岳沢分岐～JP～阿弥陀岳～行者小屋～美濃戸口	1/14～15	4

議題 1.冬山合宿

冬山合宿について、じねんじょ山の会、半田ファミリー山の会、名古屋山岳同志会、ありんこ山岳会、東三河山ぽ会、あつた労山の計画の報告がありました。出された意見としては、メンバー分けが、まだ決まっていなければ、前もって決めてほしい。・万が一、事故が起きた際の対応をどうするのかを考えておくことが必要。持っていくロープはダブルかシングルのどちらか？・登攀装備が多いのでは天候により日程変更有などがある。などの意見がありました。また、合宿連絡会議には計画書が間に合わなかったが、合宿を予定している山岳会もありました。

議題 2.事故報告

No.8 黒檜山から45分位の急な下り坂で他の登山者とのすれ違いの際、登山道横の笹原を歩いたとき、足を踏み外し10mほど転がり落ちた。【事故発生日時】2022年10月30日（日）11時35分頃【山名・山城】黒檜山・赤城山【事故者】女性66才【受傷の程度】右頭頂部から右側頭

部にかけての裂傷 16cm。右脚膝周辺の打撲及び擦過傷【事故の概要】黒檜山から 45 分位の急な下り坂で他の登山者とのすれ違いの際、登山道横の笹原を歩いたとき、足を踏み外し 10m ほど転がり落ち頭部からの出血あり。頭部からの出血に対し、圧迫止血を行い救急隊が 1 時間半で到着。ヘリも出動し 2 時間後にピックアップされ、病院へ搬送▲反省・指摘など・足を踏み外した際の記憶はない・すれ違いの際は、山側に避けるのが良いなど。

NO.9 向山から向山見晴らし台への緩やかな下りで左足首を捻り転倒【事故発生日時】2022 年 11 月 3 日（木）10 時 20 分頃【山名・山域】各務原権現山～城山・各務原アルプス【事故者】女性 66 才【受傷の程度】左足首剥離骨折【事故の概要】伊吹の滝を出発して 4 時間、向山から向山見晴らし台への緩やかな下りで左足首を捻り転倒。患部をテーピングと包帯で固定、痛みが引かず足がつかないので各務原消防署に救助要請して、ヘリで病院へ搬送▲反省・指摘など・事故が続いているので十分注意してほしい。

No.10 1 本目のクライミングでロンパールーム下部をトップロープで中央付近より離陸後、左足が滑り左肩を岩にぶつけた。【事故発生日時】2022 年 12 月 3 日（土）8 時 05 分【山名・山域】屏風岩・瑞浪【事故者】女性 61 才【受傷の程度】左肩脱臼【事故の概要】1 本目のクライミングでロンパールーム下部をトップロープで中央付近より離陸後、左足が滑り左肩を岩にぶつけた。左肩を三角巾で固定して自宅近くの病院にいった。骨に異常なし。▲反省・指摘など・どうして滑ったのか・トップロープなどで安心感があった。ふられ防止が必要など。

県連冬山留守宅

1/1 日（日）～5 日（木） 松本佳宣（東三河） 090-1831-5432

1/11 日（水）～15 日（日） 廣田 猛（同志会）080-1613-4171

上記以外の日程は、佐藤和男（あつた）090-2578-1525

議題.3 積雪期救助訓練について

登山が再開されるに従い山岳事故も増えています。愛知県連も例外ではありません。万が一事故に遭った時に慌てずに行動できるように次の通り実施します。多くの連盟員の参加を待っています。

①机上【と き】2022 年 1 月 23 日(月)19:30～、【ところ】県連事務所

ZOOM での参加も可能です。参加費は無料です。

②実技【と き】2022 年 1 月 29 日(日) 【ところ】御在所岳（積雪の状況により変更することがあります）

申し込み先：各会の理事、遭対担当者を通して、下記へ

県連遭対部長 佐藤和男（電話 090-2578-1525 か、e-mail k-310-satou@dream.jp まで）

今後の予定

遭対担当者会議 2/3 冬山合宿報告会議 1/20

1/14～15 東海ブロック雪崩講習会（実技）柵池高原

教育部 11/24(木) 第 6 回教育担当者会議を開きました

日 時：11 月 24 日（木）19 時 30 分～（zoom 会議で実施）

参加者：くらら（吉田）、同志会（樋口）、かわせみ（野村、佐伯）、みどり（兼）、あつた（坂木）、ありんこ（榊原） 計 6 山岳会 7 名

(1) 第 5 回教育担当者会議の確認

前回の担当者会議の議事内容を確認しました。

(2) 雪山安全講習会

①講座（机上）

11/1 講座①の講師は、名古屋ありんこ山岳会の榊原が担当。前段に、冬山の厳しい自然条件について、実体験を踏まえながら話しました。また、服装・装備の重要性・ウェア・装備の役割や使い方を、テントの張り方・テント生活についてもスライドで学びました。最後に、「山岳遭難救助隊長にきく 冬山登山 最低限の心がけ」（動画）をみて、冬山登山の厳しさを再認識しました。講座①の受講生は32名でした。

11/8 講座②の講師は、気象予報士東海支部の大矢さん。10/26に立山で雪が降り1晩で雪景色となった最新の話しから雪崩の怖さの動画をはじめ、気象把握の必要性等を解りやすく充実した内容で説明していただきました。講座②の受講生は39名でした。

11/15 講座③の講師は、名古屋ありんこ山岳会の榊原が担当。冬の装備（アイゼン、ピッケル、ワカン）の役割とそれらを使用した行動技術（雪上の登降、滑落停止技術、確保技術）を学びました。滑落停止技術では、どのように行うかを動画で把握しました。講座③の受講生は39名でした。

②実技山行

講座の中で、実技山行の呼びかけをしました。コロナ禍ですので、何人の方が参加するか判りませんが、準備を進めていくことを確認しました。

- ・実技山行の山行計画書／実技山行の内容を確認しました。

(3) 交流山行について

来期4月下旬から5月下旬に実施。（危険個所の通過を含む）

- ・コース：朝明～庵座の滝～釈迦ヶ岳～羽鳥峰～朝明

来期の春はこのコースとして、1度交流山行を実施してから、来期の秋にもう1回行うこととし、次回に日程を決めることとしました。

- (4) 次回の第7回教育担当者会議を2022年12月22日（木）に19時30分よりzoom会議で実施します。各会から奮って参加をお願いします。

自然保護部 11月18日（金）第5回自然保護担当者報告

2022年11月18日（金）19時30分から、第5回自然保護担当者を開き、7山岳会9名が参加しました。【出席者】高津、荻谷（ふわく）、藤井（若駒）、太田（春日井）、白水（かわせみ）、大倉（くらら）、安江（ASC）、二村、佐藤（あつた）。

以下の内容で話し合いました。

- ・各会合同清掃登山開催状況を出しました。

本宮山では缶のプルトップの古いゴミが多かった。

春日井三山では、登山道のゴミはあまりなかった

・来期以降の清掃登山について、代表者会議での意見や、各会での意見について話し合い、出された意見としては、・各山岳会の交流の場としたい。同じ場所で行うのは、山の健康診断のようなものでは・各会がいろんな山で行ってもいいのでは・従来通りで良い・愛知の山をプラスしてもいいのではなどの意見が出ました。

- ・11月19日（土曜日）アルパインスピリッツクラブが岐阜県飯地高原で清掃登山を行いました。可燃ごみ（175g）、不燃ごみ（457g）を収集しました。

組織部 第7回 組織担当者会議報告

2022 年 12 月 8 日(木)

県連事務所：午後 7 時～8 時 50 分

出席者：あつた（森田）、若駒（中橋）、同志会（吉川・菅沼）、みどり（上平）、
Zoom：春日井（落合）、かわせみ（白水）、じねんじょ（後藤）、スルジェ（杉田）、
ありんこ（榊原）、

1) 組織数の推移・入退会理由—— 加盟団体毎会員数の動向を配布。

11 月末現在 870 名で 3 月末比、3 名増です。会員数増の会は 9 山岳会、減の会は 7 山岳会でした。

各会の取り組み・特徴など——各会からの報告概要は次の通り。

あつた労山：会組織部がお膳立の山行を企画・実施しているが、日程が合わないなど不参加になると疎遠になってしまっている会員がいる。

同志会：会組織部員と準会員の Line グループ内に山行の案内を発信し、準会員の参加を増やすように最近始めた。オールメールだと気後れして参加表明されない場合があるのではない。新入会員の説明の際に、SNS のグループに参加しているかどうかは特に聞いていない。

（準会員は入会 3 ヶ月以内に定例山行 1 回以上、会員との 3 回以上、計 4 回以上参加し、計画書が作れることをクリアして正会員になる。）

2) 全国連盟関係——2 月 18 日(土)19 日(日)全国評議会開催、東京府中市。評議員一名参加。

全国総会決議集、組織関係を配布し、意見・質問等を募った。

3) 組織部交流山行——

第 2 回 既報の様に、2023 年 2 月 5 日(日)尉ヶ峰にて実施する。

実施体制、(安藤) 各会参加確認——パーティ編成作成(安藤)・計画書作成(森田)

現在参加表明、4 名。締め切りは 1 月 15 日。まとめて切符購入の為、集合厳守。

4) 第 55 期一般向け登山講座——

① 募集状況

SNS の活用——FaceBook など。その他——への掲載、第 53 期受講生へ案内する。

各会への依頼——各会 HP への掲載依頼。

② 応募状況——3 名

③ 準備状況

実技山行準備要領を作成する。

④ 実技山行、「危険個所の通過」の実施方法——実技に必要な機材の購入が別途必要であり、アンケートで指摘されていたこともあり、実技を OP で設定する。場所の調査を 1 月 14 日実施する。

⑤ 名大・竹内教授の講演——テーマ設定、質問等を募集します。1 月位には依頼・送付したい。

山の成り立ち・地質関係で、テーマの設定や聞きたいこと・疑問など組織部までお寄せ下さい。(例)伊吹山や藤原岳の石灰岩は何故山中にあるか。日本最古の石が上麻生にあるのは何故か。

⑥ スタッフや CL 等の打合せを 3 月 25 日初回に予定する。打合せ内容の要領を作成する。

5) 労山運動の理念——運動の担い手としての学習について。

時間不足でもあり、自ら学ぶ姿勢を培う為にも独習を進める。次の三点の題材の中から一点選択。

題 材——趣意書、各項から選択。連盟規約(第 3 条～第 8 条)、労山愛知 100 号記念伊藤文書。

以上の中から趣意書について、各担当者独習の上、感想・疑問点・質問などを、2 月 16 日担当者

会議までにレポートを提出し、それにより相互の意見交換を行うこととしました。

組織部交流山行 実施報告

11月23日（日）養老山にて組織部関係の交流山行を実施しました。養老公園松風橋に集合し各会の紹介の後、パーティ編成し、養老の滝～三方山～小倉山～養老山を往復しました。当日は天候にも恵まれ、小倉山ではゆっくり時間を過ごし交流を深めることができました。各会混成のパーティ編成は各会の交流の場でもあり一般登山講座の練習の意味でもありました。

参加者は、ありんこ山岳会1名、みどり山の会9名、若駒山岳会1名山の会「くらら」1名、同志会2名、春日井峠の会1名、一般参加者2名、計17名でした。

組織部交流山行 参加者感想 in 養老山

今回は秋晴れの中、沢山の人達と一緒に山登りを楽しむことができました。

観光で多くの人に親しまれている養老の滝と、その脇にある駐車場を抜けて登山道に入ると、すぐにつづらおりの坂道となり、登りの醍醐味を味わう事ができました。続く傾斜を登りきり、少し進むと景色の良い三方山に着き、その先緩やかな道を進むと、広く開けた小倉山にたどり着きました。少し風はありましたが、ここで皆さんと会話しながら昼食をとり、食後に養老山に向かい写真を撮りました。

心地よい日差しと少しの肌寒さに秋の訪れを感じながら、皆さんと和気あいあいとして、1日登山を楽しむことができました。
(同志会 舟橋)

女性部 女性部便り

12月1日（木）県連事務所において女性部会を開催いたしました。出席は【稲垣（みどり）、田中（若駒）、下川（くらら）、河村（春日井峠）】の4山岳会4名。

・交流山行について

12月4日に行われます交流山行のコースの確認と当日の役割分担及び班編制等の確認をおこないました。

・全国への提案について

来年2月に全国評議員会が開催されます。そこで議論される骨子について全国連盟三役会議で議論されます。女性部として、現在活動が休止状態の全国女性委員会についての意見等が出せないか協議をおこない、全国連盟の中でどのような位置づけで女性委員会の活動をおこなっていくのか、明確な指針を示してほしいことを提案することとしました。

「第18回 全国登山研究集会」レポート

第1分科会「山小屋の諸問題」

第1分科会「山小屋の諸問題」は15:33より全国から16名、マスコミ関係1名の参加者で開始（途中から川嶋理事長、三俣山荘の伊藤圭さんも参加し合計約20名）。初めに自己紹介と各自が山小屋で感じたことを順に報告した。以前にくらべ食事やトイレが改善された、コロナ禍で価格が高騰、人数制限で予約が取れない、などの話がでた。

宿泊キャンセルの対応も小屋ごとに違って、無料だったケースや3,000円徴収、ネット予約のためクレジット引き落としの例が報告された。またテントも予約制が増加、予定が組みにくくなった、との影響も聞かれた。

一方、北海道や東北・四国などでは営業小屋は少なく避難小屋が主体で、地元有志や山岳団体が苦勞して小屋を維持しているとの話だった。レポートは以下の3件。

①「コロナ禍で登山環境はどうか変わったのか」（田上千俊）は今年の「登山時報」2月号に掲載されたもの。八ヶ岳の高見石小屋と瑞牆の富士見平小屋のコロナ対策が紹介された。

②「四国内の山小屋、避難小屋」（市原義博）は地元ならではの知りうる各小屋のレポート。小屋の管理、水場やトイレ問題で苦慮している報告があった。

③「海外と国内の山小屋事情」（川嶋高志）はイタリア・ドロミテ山群の3か所の山小屋、スイス・グリンデルバルトの2か所の山小屋、日本国内8か所の小屋紹介。たとえばヘルンリ小屋は15,000～20,000円振込でキャンセル返金なし。天候が良いと地元ガイドが抑えてしまうなど。その後、分科会参加者で話し合い。主な項目として

- ・北海道は避難小屋に昼までに着くのが鉄則。冬、万が一の時に使うという感覚。使わなくてもテントは持参。ヒグマが増えて隠れた問題となっている。

- ・山の利用と保全に関し、今まで山小屋が担っていた部分が曖昧。国立公園の維持のため地方自治体に押し付けられていた整備には資金が必要。

- ・アメリカの国立公園は基本的に国有地。ヨセミテは維持するために入場料を取る。（自然保護、世界中の人に享受するため）

- ・苗場山は新潟県側と長野県側で整備状況が違う。国と一体となってやるべきでは。

- ・四国の三嶺避難小屋で地下浸透式のトイレが限界を超えていた。地元有志75名でクリーン作戦を展開、5～10キロずつ缶に詰め、皆で汚物を担ぎ下ろした。NHKで報道され、次回からは行政も動き、ヘリコプターで資材や汚物をおろした。徳島県がバイオトイレを設置、携帯トイレの使用も呼びかけるよう変わってきた。

- ・三俣山荘はバイオトイレで、汚泥はあと5～6年大丈夫。伊藤新道復活の一つ、茶屋と呼ばれる地に避難小屋を計画している。そのトイレをどうするか未定。

- ・山小屋間の横の連携がない。コロナ後の落としどころが見えていない。

一概に山小屋といっても抱える問題は幅広く、参加者の意識も様々であったが、山小屋経営者の生の声が聞けたこと、コロナ禍で変わっていく山小屋とともに、私たちの登山スタイルも変わりつつあるのかなと予感でき、参加した意義が感じられた分科会であった。（廣田）

第18回全国登山研究集会参加報告

若駒山岳会 田中妙子

10月29日・30日の両日 東京府中市コンチネンタルホテル府中で日本勤労者山岳連盟主催「第18回全国登山研究集会」に、全国連盟・スタッフ30名、一般参加者49名合わせて79名が参加しました。そのうち愛知県連から同志会2名、あつた労山・若駒山岳会から各1名計4名が参加しました。

1日目は 日本勤労者山岳連盟会長の開会あいさつにはじまり、川島理事長による基調報告。

三俣山荘支配人伊藤圭氏の記念講演「山と人と街プロジェクト」を聴講しました。

登山道につながるアクセスの問題、山小屋に課せられた登山道整備・遭難救助等々山小屋主導の維持管理の負担、それに加えてコロナ禍で困窮する山小屋、閉鎖に追い込まれる山小屋の現状。それら諸問題の解決に向けた「山小屋の持続可能性」「北アルプスの環境保全」を柱とした、国民全員参加を目指して立ち上げられた「北アルプス山と人と街プロジェクト」と、講演では伊藤圭氏御自身の熱い思いが伝わってきました。

私たち登山者はなぜ山に登るのか…。自然・冒険・心の癒し等々求めるものは人様々。そこから得た満足感は大い。その陰で支える山小屋の苦悩の深刻さを、私を含め多くの登山者は知ることができる。それらを打開するために立ち上げられたプロジェクトに賛同するとともに、父親の故・伊藤正一氏から受け継がれた実践と行動力にエールを送りたいと思いました。

その後、各分科会場に分かれて、分科会が開始されました。

前回の分科会は、2018年愛知県連主催、新城市「愛知県民の森」で「誰でも登山できる喜びを広げ、登山文化と労山運動を次世代に継承させよう」がテーマでした。今回は「新しい生活様式に適用した登山文化と労山運動を継承し発展させよう」がテーマでした。

分科会は「山小屋の諸問題」「登山道と遭難対策」「岩場のマナーとアクセス」「魅惑のトレイル。その楽しみ方」の4つの会場に分かれ執り行われました。

私は、第4分科会の「魅惑のトレイル。その楽しみ方」に参加しました。
第4分科会には21名が参加者。その中から代表者7人による発表がありました。

「吉備路の山全山縦走大会」「旧街道をたどるシリーズ」「近場のウォーキング」「信越トレイル、関西周辺トレイル」「京都トレイル」「女二人、裏剣に行く」「遊牧民の生活と花の回廊トレイル」「スペイン巡礼」等々。レポートの表題からもうかがえるように、街道や近場のウォーキング、遊牧民の生活や花をめぐるトレッキングガイドシェルパー同伴のトレッキングや単独のスペイン巡礼などが、其々当事者にしか知りえない話題と体験談をスライドを交えて紹介された。

「吉備路の山全山縦走大会」では、岡山勤労者山岳連盟、行政やマスコミ関係、また地域のボランティア活動の協賛をえて古代吉備の史跡を辿り丘陵地帯を登下降する35kmの山岳コースで催されるトレイルが発表された。2015年の初回は参加者678人。以降年ごとに近県をはじめ多くの県から参加者を大幅に増やしていったが2020年からコロナ禍で中止を余儀なくされているそうです。

また、信越トレイルや京都トレイルの発表では 体験者から里山の地域住民とのふれあいなどトレイルの魅力が発表された。

第四分科会の参加者は中高齢者がほとんどでそのためか、旧街道や近場のウォーキングなど里山から離れた場所。また、スペイン巡礼など海外でのトレッキングの発表もあった。

また、それらの街道歩きや近場のウォークまた、海外の巡礼など遭対基金の給付金請求にも話が及んだ。それによると、単独では基金の対象にならないが団体でなおかつ会の承認があれば給付の対象になるそうです。

これらの発表は、今迄山岳会で活動してきた高齢者の受け皿として推進しようとする思惑があるようです。今回のテーマ「新しい生活様式に対応した登山文化」と関わりがあるのでしょうか。

2日目

各分科会の発表。項目では発表及び質疑・意見の見出しになっていたが割り当てられた時間が10分と短く内容を充分把握出来なかった。

閉会后、今回初めて取り入れられたオプションに参加（参加自由）。

- A 高尾山での読図体験 スマホ・アプリの使い方
- B 高尾山での読図体験
- C 室内ジムでの注意点 PUMP2KAWASAKI でのクライミング体験

Aに参加。

早くに参加申し込みをしたが連盟から計画書作成のための必須条件の通知がなく山岳会に計画書が提出出来なかった。

初めてのことで参加者との意思の疎通が行き渡らなかった。

普段の高尾山からは想像できない静寂なコースを歩いて良かったが、これが山頂まで繋がってあればよいのだが残念ながら途中から現実の混雑した高尾山の登山道に合流。失礼ながら期待したほどのオプションのではなかった。

慌ただしい2日間でした。

第21回東海フロック雪崩事故防止のための講習会（机上）



11月13日（日）に行われました。

はじめに、愛知県連の理事長から雪崩講習会の目的について話があり、午前は、講師の森さんから、雪崩事故のリスクマネジメントなどについて講義があり、那須高原での事故事例などを例に学びました。また、雪崩ネットワークでの雪崩情報について説明。雪崩とはという事で、山岳気象、雪崩の起こりやすい地形や、弱層テストの方法について学びました。午後からは講師の宮田さんから、雪崩事故にあったらどうするかを、雪崩対策装備の雪崩ビーコン、ショベル、ブローブ、スノー

ソーなどの説明がありました。また、コンパニオンレスキューの方法、雪崩ビーコンの使い方の説明、埋没者を掘り出した後の対処などを学び、講義での質問を受付、実技での持ち物などの説明して終了しました。実技は、2023年1月14日（土）から15日（日）に樺池で行います。机上講習参加山岳会 岐阜：みのハイク3名、多治見労山3名、愛知：ASC1名、名古屋山岳同志会1名、東三河1名、くらら2名、ふわく1名、かわせみ2名、あつた2名。合計16名
講師：森（東三河）、水野（ASC）、宮田（あつた）、事務局：佐藤（あつた）

「労山登山学校交流会」に参加して

愛知県連 登山学校コーチ 岩田 宗則（じねんじょ山の会）

同研修生 樋口 寿樹（名古屋山岳同志会）

2022年11月19日（土）・20日（日）、全国連盟主催（京都府連主管）の登山学校交流会が京都・大原温泉で開かれ、愛知県連登山学校からコーチの岩田、研修生の樋口が参加しました。第一日目は、各地方連盟の登山学校の現状と問題意識の発表・議論、二日目は金比羅山周辺での親睦クライミングという計画でしたが、二日目のクライミングはあいにくの雨で中止となりました。

第一日目は、柳川全国連盟遭難対策部員による講義「元気に山へ行くために」のあと、愛知県連をはじめ、兵庫、大阪、滋賀、京都、岡山、東京など参加した各地方連盟で実施している登山学校および講習会における指導内容の紹介・確認・情報交換が行われました。

各地方連盟それぞれの抱える登山学校の運営上の悩み・問題意識は、地域やそれぞれの会が直面する組織上の問題により大きく異なっており、問題解決へのアプローチも大きく異なっています。

関西地区の連盟からは、一般会員の平均年齢が60歳代中盤と高齢化が進んでおり、一番の関心事は高齢者を、山岳会から引退することなくいかに長く留まらせることが出来るか、という視点で、筋力強化活動を登山学校主催で実施する等の活動をしているという報告がなされました。

また、高齢化の進展により、登山の初級レベルの教育さえできなくなった中小山岳会の支援として、県連で初級カリキュラムに特化した登山学校コースを開設し、新規会員の取りこぼしをなくするよう努めているという報告もありました。

一方、高齢化問題が関西ほど深刻でない（と感じました）東京都連からは、岩をやりたい若者は多くいるにもかかわらず、ロッククライミングのコーチの人材不足、コロナ禍における外岩での訓練機会実施の困難さ、などから、彼らの要望に十分応えられるような受け皿が整備できていない、という問題が出されました。これらの問題に対処すべく、前者はコーチ人材を一般公募制とし、更に実力底上げのためのコーチ研修を実施しようとしている、後者については、ロッククライミングコースを改変・簡易化し、練習は人口壁に限定し、リードクライミングのセカンドのビレイができるようになる訓練に特化した、という報告がありました。

関西の報告からは、会員の高齢化や、それぞれの地方連盟の組織減に対する「延命」の努力の中での登山学校の維持、存続を模索する姿、東京の報告からは、現状の要求への対処しようとする姿をうかがい知ることができました。ただ、双方ともに、現象面への対応に苦慮していながら、それらが現在の労山の組織の中で、「何のための登山学校か、誰のための登山学校か」という基本に立ち返るところまで果たして考えられているのだろうか、という点で登山学校という会員教育の「手段」が、「目的」になってはいしまいか、という感じをも受けました。この交流会は、各地方連盟の悩みや問題意識の違いを認識できたという点で、非常に刺激的な集まりでした。

愛知県連も関西の連盟のような悩みを抱えつつ、ここ三年、コロナ禍の中でも厳しい登山学校運営を続けてきましたが、そのことは、登山学校が、愛知県連盟の会員教育の大きな柱のひとつであることを実践を通して発信し続けることでもありました。会員の高齢化や会員減など、目が内部にだけ向きそうな状況ですが、登山学校の果たすべき役割とこれまでの積み重ねを、きちんと外に伝えて、多くの仲間を迎え入れる態勢を作る必要があるのではないか、という思いを新たにする良い機会となりました。

愛知県勤労者山岳連盟第54期登山学校 2023年4月2日から開講

愛知県勤労者山岳連盟第54期登山学校を、下記の2コースで開校します。

マウンテニアリング・コースは、山を歩くための生活・行動技術、パーティーとしての基本的な行動や考え方を学び、安全な登山の総合的な力量を身につけます。

クライミング・コースは、登攀具の初歩的な使い方から岩登りの技術、安全についての理解と認識を高めていきます。

登山の基本的な知識・技術を体系的に学び、「連れていってもらおう」登山者ではなく、総合力を身につけた自立した登山者になることをめざします。多くの仲間の受講を呼びかけます。

1 定員 マウンテニアリング・コース、クライミング・コース ともに **15名**

2 応募資格、申し込み方法

資格は特に限定しませんが、学ぶ意欲、体調管理ができること、きちんと歩く力があること。

(実技の前に課題を配布しますので、ロープワークなどは予習のこと)。

労山基金に10口加入していること。(安全対策基金を活用し、開催されています)

入校申込書兼推薦書に必要事項を記入し、下記まで申し込んでください。

(必ず所属山岳会の会長が推薦理由を記載し、登山学校事務局へメールで申し込んで下さい)

【申し込み先】 愛知県勤労者山岳連盟 登山学校事務局 tozangakko@gmail.com

3 受講料 各コースとも33,000円(机上講習、実技講習代、テキスト代を含む。実技講習にかかる交通費、装備等は各自別途実費負担) ※クライミング装備をそろえるのにお金がかかります。

理論講座を受講してから購入するようにしてください。あわてて買ってしまうこと。

4 カリキュラム *基本的に、遅刻、欠席は認めません。 *宿泊を伴う実技等の開催は、状況に応じ対応

【理論講座(マウンテニアリング、クライミング共通)】 *オンライン受講は、状況に応じ対応

開 講 日	テーマ ()内は講師	講 習 内 容
2023年 4月2日(日) 8:30~16:30	労山運動の理念 ①登山の動機と意義②組織論／③遭難事の防止／ ④自然保護 登山の計画～下山まで ① 計画書の意味／装備と食糧 ()	開校式を兼ねています。何気なく山に登っている自分をまず見つめてみましょう。登山者として必要な「山に入る姿勢」と「なぜ山に登るか？」を考えます。 また計画書の重要性を通して、自分が所属している山岳会の意味や登山の危険と安全、その防止のための登山の基礎的な知識やルールなど登山の基本について考えます。
4月3日(月)	岩登りの基礎Ⅰ ()	岩登りについての考え方、具体的・基本的な知識、用具の解説、ロープワークについて学びます。
4月10日(月)	岩登りの基礎Ⅱ ()	岩の登り方・確保の方法についての注意点など、クライミングにおける技術とルール、その実際を理解します。
4月17日(月)	登山の計画～下山まで ② 生活・行動技術()	山での生活の基本、行動上の注意点、歩き方や危険箇所の判断・通過の仕方などについて学習します。
4月24日(月)	地図の読み方・使い方 ()	地図の実践的な使い方、読み方を学ぶとともに、計画書作成に不可欠な概念図の書き方について学習します。
5月8日(月)	気象Ⅰ ()	天気図と山の天気的基础を学びます。天気予報だけではわからない、気象のあれこれが見えてきます。
5月15日(月)	気象Ⅱ ()	天気図が書けるだけでなく読めることが必要です。天候の予測、次の行動の判断ができるようになるかな？
5月22日(月)	パーティー論・リーダー論 ()	パーティーが安全に登り、確実に下山できるようにリーダーやメンバーが果たすべき役割と責任は？

5月29日(月)	沢登りの基礎 ()	岩登り、生活・行動技術など総合的な力を要求される沢登り。その装備や技術について学びます。
6月5日(月)	確保技術講習会(机上) ※県連遭対部行事()	岩登りや沢登りに不可欠な確保技術。正確な知識と安全な確保とはどのようなものか、を学びます。
6月12日(月)	無雪期救助訓練(机上) ※県連遭対部行事()	県連の救助訓練に参加します。山行中に起きた事故を想定した救助の基礎的で実戦的な知識と技術を学びます。
6月19日(月)	体力・トレーニング論 ()	登山に必要な体力づくりを効果的におこなう方法を学びます。日常的に実践できるようになりましょう。
6月24日(土) 9:30~16:00	救急救命法 ※県連遭対部行事()	ファーストエイド。山行中のアクシデントや疾病に対処できる実戦的な知識・技術を学びます。
6月26日(月)	登山の危険と安全対策 ()	山では危険のあることを知り、安全な登山をしていくことは登山者の責任。事故事例を検証し、他に学ぶことで、どうしたら安全な登山ができるかを考えます。

【実技】M：マウンテンアリングコース、C：クライミングコース、MC：両コース共通

実施日程	区分	山域(予定)	備考
4月15-16日(日)	MC	南山(豊田)ゲレンデ	テント泊。基本の「き」を学ぶ
4月22日(土)	M	鈴鹿・烏帽子岳(予定)	山歩きのおもしろさを実感
4月23日(日)	C	南山(豊田)ゲレンデ	いよいよ、岩場で実践
5月14日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
5月20-21日(土・日)	M	鈴鹿南部(未定)	幕営・生活技術を習得する
5月28日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
6月11日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本に習熟する
6月18日(日)	MC	比良(予定)	確保技術講習会実技 ※県連遭対部行事
6月25日(日)	MC	鈴鹿・藤内壁周辺	救助訓練 ※県連遭対部行事
7月8-9日(土・日)	MC	鈴鹿周辺(予定)	1日目読図、2日目沢登り
8月19日(土)	M	中央ア・烏帽子岳	研修山行を見据えた実技
8月20日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	研修山行を見据えた実技
8月26-27日(土・日)	M	八ヶ岳	研修山行 ※8月21日(月)打合わせ
9月2-3日(土・日)	C	八ヶ岳・阿弥陀南稜～小同心・中山尾根(予定)	研修山行 ※8月21日(月)打合わせ

登山学校の理論講座は、労山会員なら誰でも受講可能です。(一講座 500 円)

「学びたい!」と思う講座をチョイスして聞くことができます。この機会を有効に使いましょう! 有料ですが、なかなか普段、会では学べない内容の講座をラインナップしています。講座当日、19時半までに県連事務所へどうぞ! 県連登山学校のテキストも、希望者には頒布(1000 円)しています。当日の講師の補足資料(受講者に配布)とあわせて利用してください

【編集後記】 去年も一昨年、12月18~19日頃にまとまった雪が降って、鈴鹿は雪山の様相になりました。面白いことに今年も同じ18日に雪が降りそうです。3年連続で同じ日です!! と、ここまで書いたところで、念のため mountain-forecast の御在所をチェックしたら・・・雪マーク消えてました……。今年はどんな冬が待っていますでしょうか。(事務局 井土)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2022

2023 年 1 月			2 月			3 月		
1	日		1	水		1	水	
2	月		2	木	女性部会⑨	2	木	
3	火		3	金	遭対担当者会議⑤	3	金	
4	水		4	土		4	土	
5	木	理事会⑪	5	日		5	日	第 55 期総会
6	金		6	月		6	月	
7	土		7	火		7	火	
8	日		8	水		8	水	
9	月		9	木	理事会⑬	9	木	
10	火		10	金		10	金	
11	水		11	土		11	土	
12	木	組織担当者会議⑧ 女性部会⑧	12	日		12	日	
13	金		13	月		13	月	
14	土	雪崩講習会	14	火		14	火	
15	日	雪崩講習会	15	水		15	水	
16	月		16	木	組織担当者会議⑨	16	木	
17	火		17	金		17	金	
18	水		18	土		18	土	
19	木	教育担当者会議⑧	19	日		19	日	
20	金	冬山合宿報告会議	20	月		20	月	
21	土		21	火		21	火	
22	日	雪山安全講習会実技山行	22	水		22	水	
23	月	積雪期救助訓練 (机上)	23	木		23	木	
24	火		24	金		24	金	
25	水		25	土		25	土	
26	木	理事会⑫	26	日		26	日	
27	金	自然保護担当⑦	27	月		27	月	
28	土		28	火		28	火	
29	日	積雪期救助訓練(実技)						
30	月							
31	火							